

JACET-Chubu Newsletter

社団法人大学英語教育学会中部支部 No.26

第28回 JACET 中部支部大会へのお誘い

支部長 小宮富子
(岡崎女子短期大学)

5月を迎え、陽射しもようやく温かくなり、大震災以後の衝撃で凍りついていた人々の表情にも少しずつ血色が戻りつつあるように思われます。今は、普通の暮らしを普通に続けることが「危機」を乗り越える薬になるのではないかと感じています。

さて、来る6月4日(土)には、名城大学にて第28回 JACET 中部支部大会が開催されます。大会テーマは「大学英語教育における理論と実践の

連携」です。今回は英語教育の「応用科学」としての側面に焦点をあて、コーパス言語学・生成文法、第二言語習得論・学習科学などが英語教育現場にどのような光を投げかけてくれるのか、多角的な視点から議論してゆきたいと考えています。

特別講演講師には東京外大大学院教授の投野由紀夫先生をお招きしています。投野先生はNHKの元テレビ英会話講師としても広く知られていますが、ご専門はコーパス言語学であり、「コーパス言語学の英語教育への応用:CEFRを中心に」という演題でお話しいただく予定です。また、大会テーマを冠したシンポジウムにも、多彩なパネリストをお招きしています。生成文法による統語論研究がご専門の南山大学教授・鈴木達也先生、応用言語学や第二言語習得論の研究で著名な関西学院大学教授の門田修平先生、日本における学習科学のリーダーとして知られる東京大学教授の三宅なほみ先生など、素晴らしい先生方のご協力をいただくことができました。門田先生はシャドーイングの効果について、三宅先生は英語授業における **knowledge transforming** についてお話し下さる予定です。

先端を走る研究者のもつ「研究スケールの大きさ」や「真摯な研究姿勢」にはいつも一種の感動や爽快感を感じさせられます。それは研究対象の核心に触れている人の自信から生まれる伸びやかさのせいかもしれません。凝縮された知的探求の成果に直接触れることのできる機会の一つが、支部大会であるといえます。年に1度の支部最大のイベントを逃すことなく、是非ともご参加下さい！

目次

第28回 JACET 中部支部大会へのお誘い 小宮富子	1 頁
公開講演会(対話創生プロジェクト2010)参加報告(E. Traugott氏、山梨正明氏) 大森裕實	2 頁
研究会活動報告1 言語アセスメント研究会 小宮富子	4 頁
研究会活動報告2 最新言語理論に基づく応用英語文法研究会 大森裕實・今井隆夫	4 頁
講演会報告 望月正道氏 倉橋洋子	5 頁
CyberSpace 石川有香	6 頁
掲示板・事務局より	7 頁

公開講演会（対話創生プロジェクト 2010） 参加報告

第3回 Elizabeth C. Traugott “On the Persistence
of Linguistic Contexts Over Time”

第5回 山梨正明「認知言語学からみた外国語教育の
展望」

名古屋大学大学院国際言語文化研究科応用言語学講座が主催する公開講演会が平成22年度末に連続して実施され、それぞれに参加者を魅了した。第3回が2011年3月9日に、第4回は東北地方の大震災のため中止となったが、第5回が同年3月24日に開催された。本稿はその2つの講演について簡潔に報告するものである。

1. Elizabeth C. Traugott 講演について

Traugott 女史は現在 Stanford 大学の名誉教授職に在るが、その品格の高い立ち居振る舞いと質の高い研究発表に定評があり、いまなお第一線級の研究者として *productive* に活動を続けている。本稿筆者が初めてその名を意識したのは *A History of English* (1972) [当時の変形生成文法による英語文構造の歴史的变化の解明を試みたもの] を読んだ時であったが、その後1980年代には、統語論や意味論に加えて、社会言語学の分野でも *paper* を見かけるようになった。Suzan Romaine と共編著した *Folio Linguistica Historica* 6 (1983) では、社会歴史言語学的視点から英語の *style* とは何かを見究めようと意欲的に取り組んだものである。Text を産み出す背景に Context の存在があることを十分に意識した機能主義的言語観は1990-2000年代の *Grammaticalization* (1993, 2nd much revised ed. 2003; with Paul Hopper, 『文法化』日野資成訳)、*Regularity in Semantic Change* (2002; with Richard B. Dasher)、*Lexicalization and Language Change* (2005; with Laurel J. Brinton, 『語彙化と言語変化』日野資成訳) といった一連の著作に結実しているといつてよい。特に、*Grammaticalization* の扉に記された20世紀アメリカ言語学界の泰斗 Dwight Bolinger への献辞に、女史の言語研究に対する姿勢がよく現われている。

今回の presentation では、言語コーパスを利用

して文法化 (Grammaticalization) の通時的研究を行なう際に問題となる言語的コンテキストを整理し直し、その持続性の有無について論じるものであった——言語的コンテキストの適切な単位とは何か、コンテキストは特定構造の歴史的過程においてどの程度の長さまで関連し続けるのか、新旧コンテキストの持続性が保たれるということが言語の生態にどのような結果をもたらすのか、こうした疑問に対する解答が *micro-change* に対するコーパス利用研究にどのように影響を与えるのか。例えば、*be going to* が本義的意味を消失して擬似法助動詞としての機能を獲得し一般化に至る過程を通時的に検証するためには、当該表現が使われるコンテキストを十分に考慮しなければならないことは言を俟たないが、文法化には基本的に3種類のコンテキストが関係することを峻別しておかねばならない——すなわち、(1) 文法化に先立つコンテキスト [Critical Context と同義であり、語用論的には曖昧性をもつ]、(2) 文法化開始時のコンテキスト [Switch Context と同義であり、再分析が起こったことを示す]、(3) 文法化後の拡張型コンテキスト [Conventionalized Context と同義であり、一般化につながり、新構造の生産性を増加する]。コンテキストの持続性は談話的文脈に注意を払うことによつてのみ見定めることができるが、そうした語用論的文脈は扱うのが容易ではない。それにもかかわらず、言語コーパスを利用して文法化を研究する際には不可欠の視点である。院生の質問に対して、「とにかくテキストをよく読み込みなさい」という至言が心に響いた。言語変化を考究する *philologist* の矜持がそこにある。

2. 山梨正明講演について

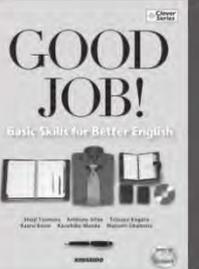
山梨正明京都大学教授は、現在「日本認知言語学会」及び「日本語用論学会」の会長職に在り、難度の高い重厚な内容をその軽妙洒脱な話しぶりで聴衆に伝えることのできる稀有な *leading scholar* である。講演日が東北地方の大震災の傷跡も生々しく、TV で被災地の模様が連日映し出されている最中であつたため、何もできないもどかしさに鬱積した気分に参加した聴衆も少なくなかつたと思うが、講演後の人々の心の中に何か灯火を感じさせてくれる氏の *vigorous talk* は学術

的価値以上に意義深いものであった。まさに、何々言語学といった形式的枠組みに囚われない「ことばの攻究者」として、面目躍如たる埒外の大きさがあった。その一面は、最近の著作『認知構文論』(2009)における、言語現象の分析に臨む姿勢とその偏りのない広範な参照文献によく現われている。氏の学究歴を考慮すると、伝統文法や科学的記述文法から出発し、アメリカ構造主義言語学(行動主義心理学を含む)を経て生成文法が隆盛を極めた1970年代前半に米国カリフォルニアとミシガンで言語学を修めながらも、生成文法の内包する危うさに気づいたことが認知言語学の道を歩む契機になったのではないかと想像する。おそらく、その研究史に起因すると思われるのだが、氏には、新しい理論やパラダイムに関する文献だけを読んで論文を仕立てるタイプの研究者とは一線を画する清流のようなものが感じられ、それが懐かしさや安堵感を与えてくれる。塚原茂(編)『認知言語学の発展』(2000)は、生成理論の枠組みで意味の問題を追及した Lakoff / Posatal / McCawley 等の生成意味論が、意味研究から語用論にまで守備範囲を拡大し、やがてその限界に達し、新たな意味研究の方法論の構築が試みられるようになったこと—Fillmore のフレーム意味論、Kay のプロトタイプ意味論、Fauconnier のメンタル・スペース理論、Lakoff の認知意味論、Langacker の認知文法の登壇を述懐するのだが、最近精力的に活動する Sweetser や Goldberg の名も挙げておかなばならない。そもそも、統語構造を中核に据える生成文法の基本理念から考えて、意味論の存在理

由を同じ領域内に見出だすことが困難であったことは想像に難くない。

今回の presentation では、人間の一般的認知能力から独立した自律的存在として言語能力を規定しない認知言語学のアプローチが、L1 の言語能力の問題に留まらず、L2/FL の言語能力や言語運用の問題の解明にまで寄与することができるかどうか、すなわち、認知言語学の外国語教育への適用可能性を探る意欲的な試みが展開されたといつてよい。例えば、認知能力に関わる重要な要因の一つとして知られる「図/地の分化/反転」は The bottle is half empty. を初めとする様々な英文の理解に対して、話者の視点や主観性の意識を持ち込んだ英文法能力の涵養に初歩的段階から貢献できる。また、「参照点能力と焦点連鎖」や「カテゴリー化(スキーマ化、事例化、拡張)」も同様であり、現行辞書の定義の再検討を促し、英語語彙の多義をネットワークで理解する方法の効果が期待できる。さらに特筆すべきは、メタ認知的知識が学習過程におけるモニタリングに役立つという点で、これは最近耳目を集める Reflection Approach—「省察」を求める教授法にも応用できる考え方であり、大津由紀雄慶應大学教授が説く「言語的気づきの涵養」の概念にも通底する。このような話に接するとき、本稿筆者が切望して已まない、言語プロパーの学会と言語教育中心の学会との本格的 collaboration もそれほど遠くない将来に実現しそうな気配が感じられる。

大森裕實(愛知県立大学)

 <h2>Clover Series</h2>				
<p>クローバー・シリーズは大学生のための英語再入門シリーズです</p>	<p>Reading Sense 大学英文法と読解の基本演習 Robert Hickling / 市川泰弘 著 全 22 章 本体価格 2,000 円</p>	<p>English Charge! 大学英文法徹底トレーニング Robert Hickling / 市川泰弘 著 全 22 章 本体価格 1,950 円</p>	<p>Good Job! 未来へ架ける英語の橋 津村博志 / Anthony Allan / 加賀田哲也 / 小嶋かをる / 前田和彦 / 岡本真由美 著 全 15 章 本体価格 1,950 円</p>	<p>Get Reading! 大学生のための読解演習と基本文法 Robert Hickling / 市川泰弘 著 全 22 章 本体価格 1,950 円</p>
 <h2>金星堂</h2> <p>〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-21 TEL. 03 (3263) 3828 FAX 03 (3263) 0716 http://www.kinsei-do.co.jp e-mail: text@kinsei-do.co.jp</p>				

研究会活動報告 1

言語アセスメント研究会

言語アセスメント研究会は多文化化する現代の社会ニーズに対応しうる外国語教育（とりわけ英語教育）のあり方について、社会言語学的視点を重視しつつ、多角的な評価活動を試みようとする研究会である。2010年度は「言語アセスメントの理論および英語教育への応用方法の研究」というテーマで研究活動を行なった。研究会員は中部支部5名、関西支部1名、九州沖縄支部1名という構成であり、日常の連絡は主としてメーリングリストなどを活用し、年に数回の会合を実施している。

2010年度の主な研究会活動としては、①全国大会での発表、②支部紀要投稿論文の執筆、③科学研究費への応募、④共著執筆の準備などであった。第49回 JACET 全国大会では「多文化共生時代における英語教育と言語アセスメント」をテーマにポスター発表を行なった。大学英語教育に関する評価視点については「多文化共生社会のニーズに対応する大学英語教育アセスメントの評価視点」や「国際英語論からみた大学英語教育の評価視点」などを取り上げ、また、実際の評価事例として「ESP カリキュラムの CEFR に基づくアセスメント」「観光英語学習への PASSPORT 活用事例のアセスメント」その他を取り上げた。ポスター発表への反響は大きく、多文化共生時代のニーズに英語教育がどう応えているかに関するアセスメントを実施する意義について評価の声をいただいた。

②は①の内容を論文としてまとめたものであり、2010年度中部支部紀要に掲載された。科学研究費に関しても研究会として精力的な応募活動を行っており、現在、結果待ちの段階である。『英語教育学体系第3巻:英語教育と文化』(大修館 2010)の出版に際して「民族・言語と英語教育」「言語政策と英語教育」「日本人と英語」「言語と社会階層」その他の章において研究会会員が参画し、執筆を担当したことも研究成果の一つであり、研究会独自の出版物の執筆も目下検討中である。また、個人ベースでは国内・国外を問わず、それぞれの会

員が活発な研究発表活動を行なっている。

言語アセスメントは、比較的新しい概念であるが、ESP のニーズ分析や大学英語授業の評価との共通性を持つ一方、社会言語学的な視点からの評価を行なう点に現代的で実際的な意味を持つものである。今後も言語アセスメントのより有効な実践方法についての研究を重ねてゆく予定である。

小宮富子(代表・岡崎女子短期大学)

研究会活動報告 2

最新言語理論に基づく応用英語文法研究会

「最新言語理論に基づく応用英語文法研究会 (Applied English Grammar based on the Latest Linguistic Theories)」は、2010年9月の理事会で設立承認を受け、同年12月から本格的に始動したばかりの研究会である。本研究会では、生成文法理論、認知言語学、語彙意味論、機能主義言語学、コーパス言語研究などの知見を英語の学習・教育に応用できるように加工し、従来の学習英文法では一面的にとらえがちであった文法現象や構文に対して、多面的アプローチによりその説明と導入を試みることを主目的としている。現在、会員各々の専門分野から英語の学習・教育に応用できる項目について情報の共有化を図りながら議論を進めている。例えば、いわゆる学校文法においては、二重目的語構文 (double object construction) と与格構文 (dative construction) の書き換えが機械的かつ等価に行なえるかのよう提示される場合が多いが、これらの構文で用いられる動詞や文脈を変えることで、両方も可能、一方のみが可能、両方可能ではあるが意味に違いが生じるものがあるという言語事実への配慮が欠けている。これに関して、(1) 母語話者アンケートなどから、認知文法でいうところの何らかの schema (規則性) が抽出できないか、(2) 第二言語学習者への教授とその効果はどうか、(3) 習得を容易にする例文の抽出の可能性、(4) 言語コーパスを利用した提示されるべき実例への配慮について、今後検討を重ねていくことが計画されてい

る。もっとも、本研究会としては、考察対象とする具体的な文法項目については、今後の会員諸氏の興味と関心に依拠して変更が可能となる「学問的可塑性」を維持したいと思う。

本研究会の現会員による最近の著書には、『学校文法の語らなかつた英語構文』(勁草書房)、『リーディングとライティングの理論と実践』(大修館書店)、『イメージで捉える感覚英文法』(開拓社)、『ことばとコミュニケーションのフォーラム』(開拓社)等があるので参照されたい。

2011年度の活動としては、定例研究会を積極的に推進するとともに、JACET 設立 50 周年記念国際大会でのポスター発表を一つの feature と考えている。

大森裕實 (代表・愛知県立大学)
今井隆夫 (副代表・愛知みずほ大学)

講演会報告

2010 年度 2 月定例研究会

「SLA に基づく効果的な英語語彙指導法」

望月正道氏 (麗澤大学)
2011 年 2 月 26 日 (土)
(於中部大学名古屋キャンパス)

本講演は、語彙指導に際して「単語は文脈で覚えさせるべきである」などさまざまな言説がある中で、どのような方法が効果的であるかを

SLA(Second Language Acquisition)に基づいて論じた有意義なものであった。特に、語彙指導における母語の使用の合理性が示され、勇気づけられた。

望月氏によれば、語彙力とは、1. 単語を多く、2. 詳しく知っていて、3. すばやく認知し、使用できることであり、語彙指導の範囲もこれらに対応し、1. 語彙サイズ、2. 語の知識の深さ、3. 単語のアクセス速度の指導がある。また、語彙習得には 3 段階、「ラベル付け (発音と意味の一致)」、「箱詰め (概念形成)」、「ネットワーク形成」があり (Aitchison (2003))、語彙指導もそれに呼応して「導入」、「定着」、「発展」の 3 段階があることを前提とした論の展開であった。以下、講演内容を指導の 3 段階に当てはめて概観してみる。

「導入」の段階では、母語の訳 (意味) を予めリストで教えるべき語以外は、意味を推測させ、その後に辞書を引かせることが効果的な語彙指導であると論じられた。母語の訳を予め与えることの根拠は、語彙サイズと語の知識の深さには相関があること、なおかつ、「母語の語の知識の深さは、L2 の語にも転移される」と考えられること、さらに、Webb(2007)のテスト結果の母語を利用した指導の合理性から導き出された。また、文脈から単語の意味を推測するには、他の単語を 98%以上知っていなければ困難であると言及された。辞書指導では、まず、意味の推測の後、品詞を考えてから辞書を引くべきである。さらに、導入段階では、意味の似た語をグループで提示するよりも、無関

南雲堂の英語テキスト

木村友保先生 好評テキスト<時事英語・リスニング>テキスト!!

木村友保 / NHK 国際放送局監修

NHK WORLD NEWS : Global Perspectives

NHK ワールド・ニュースで学ぶ『聴く英語、読む英語』

NHK ワールド・ニュースと共に時事英語を完全マスター! 3段階のリスニングパートで時事英語に慣れ親しみ、必須の英単語を確認!!
リーディングパートでトピックニュースを完全理解!!! B5判 104頁 CD付 2,100円(税込)全24章、各章4ページ構成。

片野田浩子先生 大好評テキスト<TOEIC>シリーズ!

A Shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650 K (カタノダ)メソッドによる『5分間』新 TOEIC テスト・リーディングシリーズ

A Shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650 K (カタノダ)メソッドによる『5分間』新 TOEIC テスト・リスニングシリーズ
サブテキストに! 半期用教材として! 使い方多様! 大好評『5分間』シリーズ B5判 各735円(税込)

POWER-UP シリーズ

コミュニケーションに必要な英語の基礎力養成に! JACET リスニング研究会編 B5判 1,995円(税込)~

★ Power-Up English <Advanced 編>/<Intermediate 編>/<Basic 編> ★ Forerunner to Power-Up English <入門編>も登場!

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361 TEL: 03-3268-2311 FAX: 03-3269-2486 E-mail: nanundo@post.ensai.ne.jp URL: http://www.nanun-do.co.jp/

係のグループで提示する方が、意味的干渉が記憶に影響しないために覚えやすいという説得力のある論が提示された。

「定着」の段階においては、さまざまな活動、練習が効果的であることが示された。単語の記憶に影響する要因は、どれだけ単語と深く関わるかということと頻度であるので、1つの単語を覚えるには8回から10回文脈の中で出会い(Schmitt, 2008)、間隔をおいて復習することが効果的である。語の再定着のためにはテキストで勉強させ、テストを行うことも効果的である。

「発展」の段階においては、単語のネットワーク形成、すなわち、既習語を整理し、「派生語、同意語、反意語、コロケーション」を学習させることが効果的な指導であると論じられた。これは、語彙習得において発音や意味、多義性や同意語、連想、文法、使用域などは一度に習得されず、漸増的で、段階を経るためである。

最後に、「学生が語彙学習を楽しむ指導」として、目標を与え、その達成度を知らせ、語彙学習の仕方を教え、さらに安心感を与えることなどが提案された。

本講演で論じられた語彙指導方法は、どのレベルの学生においても応用でき、それぞれのレベルにおいて未知の単語の導入、定着、発展段階の指導があると考えられた。

倉橋洋子 (東海学園大学)

CyberSpace

映画を利用した英語学習

石川有香 (名古屋工業大学)

繰り返し聞いて覚えたお気に入りの歌なら、何年たっても、歌詞カードを見なくても、間違えずに歌うことができる。美しい映像と音楽の入った、楽しい映画なら、何度も繰り返し見ているうちに、洒落た英語セリフや言い回しも覚えてしまうことができる (はず)。「好きこそものの上手なれ」ということだ。

2009年9月の発売以来、映画を利用した英語学習教材の「超字幕®」シリーズは、長期間にわたり、ソフトウェア教材の売り上げトップを走っていると言う。発売したのは、ウイルス対策などのコンピュータ・ソフトウェアを販売しているソースネクストだが、このほど、東進ハイスクールで有名なナガセに著作権と商標権が譲渡されたというニュースも話題となった。

映画を利用した英語学習といっても、従来から書店の本棚に並べられている「名スピーチの英語」や「名プレゼンの英語」といった学習教材の方が、発音もわかりやすいだろうし、汎用性も高いので、学習モデルとしてはスピーチやプレゼンテーションの方が優れているのではないかと、第一、数分で終わる歌とは違って、2時間近くかかる映画をどのようにして繰り返し、学習させるのだろうか、などと二の足を踏んでいたのだが、ニュースに背中を押された。

コンテンツを調べてみると、200本以上が販売されていて、その中には、ディスカバリー・チャンネルの番組シリーズも含まれているという。番組の英語は、聞きやすく、学習モデルに適している。内容も、工学部の学生の英語学習にはちょうど良いと思い、映画とディスカバリー・チャンネルのソフトを合わせて、数点を購入してみた。

日本語字幕と英語字幕の両方を、適宜、ついたり消したりすることはもちろん、セリフを一つずつ繰り返したり、再生の速度を変更したりすることも、クリック一つでできる。しかも、『リーダーズ英和辞典』と『リーダーズ・プラス』が搭載されており、字幕に出てきた英単語をその場で調べ、独自の単語帳を作成することもできる。

「超連続リスニング」というセクションでは、セリフの中からリスニング用の穴抜き問題が提示され、時間内にタイプをすれば、ポイントが加算されてゆく。ゲーム感覚で英語学習ができるようになっていて、楽しみながらリスニング練習ができる仕組みも組み込まれている。また、ソフトをコンピュータに格納できるので、時間が空いた時にいつでも気軽に英語学習を楽しむことができる。

学習のための様々な工夫に加えて、新しい映画や人気のドラマが、市販のDVDとほとんど変わ

らない価格で入手できることも魅力の一つと言えるが、特に、ディスカバリー・チャンネルの場合は、契約をしていないと通常のテレビで見ることができないので、番組を丸ごと収録しているソフトは、利用価値が高い。

まずは、学生ボランティアに試用してもらった。二か月たったが、映画を選んだ学生もディスカバリー・チャンネルを選んだ学生も、まだ学習を続けている。

機能制限がついているが、「超字幕®」の体験版は、以下の URL からアクセスできる。

<http://www.chou-jimaku.com/trial/>



掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 9 号に掲載用の原稿を募集します。奮ってご応募ください。

- ・刊行は 2011 年の 12 月予定です。
- ・今年度より、掲載を承認された筆者は 1 ページにつき、1,000 円の割合で掲載料のご負担が必要となります。
- ・締め切りは 8 月 20 日です。
- ・詳細は支部ホームページや紀要最終ページにあります「投稿規程」でご確認ください。

支部紀要編集委員会

事務局より

◆ 新入会員のご紹介

2010 年 10 月から 2011 年 4 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。(敬称略、入会順)

平出優子(南山大学[大学院生])、西澤 一(豊田工業高等専門学校)、綾野誠紀(三重大学)、新見 明(豊田市立益富中学[非常勤])、山中マーガレット(岐阜女子大学)、武岡さおり(名古屋女子大学)、Alan Weber、白畑知彦(静岡大学)、門澤 理(静岡産業大学[学生])、大藪加奈(金沢大学)、小林憲一郎(南山大学)、宮崎佳典(静岡大学)

◆ 支部役員のご紹介

2011 年度支部役員は下記の通りです。任期途中ではありましたが、丹羽義信氏(名古屋大学名誉教授)が研究企画委員をご退任になり、新任として今井隆夫氏(愛知みずほ大学)が承認されました。また、紀要編集委員長の塩澤正氏は本年在外研究のため不在となりますので、その間、津田早苗氏が代行されます。(所属・敬称略、50 音順、任期は 2012 年 3 月末日まで)

顧問 田中春美
理事 小宮富子、大森裕實
支部長 小宮富子
副支部長 大森裕實
事務局幹事 下内 充
支部幹事 榎木菌鉄也

社 員 (15 名)

石川有香、大石晴美、岡戸浩子、片野田浩子、木村友保、倉橋洋子、鹿野 緑、佐藤雄大、塩澤 正、清水克正、下内 充、津田早苗、馬場

景子、村田泰美、吉川 寛

研究企画委員 (22名)

石川有香、伊東田恵、今井隆夫、岩城奈巳、榎木薫鉄也、大石晴美、岡戸浩子、片野田浩子、木村友保、Leah Gilner、倉橋洋子、鹿野 緑、佐藤雄大、塩澤 正、清水克正、下内 充、津田早苗、馬場景子、村田泰美、室 淳子、山中秀三、吉川 寛

支部紀要編集委員

津田早苗 (委員長 [代行])、大森裕實、倉橋洋子、小宮富子、清水克正、山中秀三、吉川 寛

◆ 2011 年度 JACET 全国大会ご案内

第 50 回記念国際大会は 8 月 31 日 (水)・9 月 1 日 (木)・2 日 (金) の 3 日間、西南学院大学 (福岡市) にて開催されます。

大会テーマ

Challenges for Tertiary English Education :
JACET's Role in the Next Fifty Years

高等英語教育への新たなる挑戦—JACET のこれからの 50 年

◆住所変更届提出のお願い

支部会員みなさまに、紀要や newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。

詳細は、以下のサイトをご覧ください。

JACET 中部支部ホームページ

<http://www.jacet-chubu.org/>

◆ニューズレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

中部支部事務局：

〒504-8511 各務原市那加桐野町 5-68

東海学院大学 下内 充研究室内

E-mail simoutim@tokaigakuin-u.ac.jp

Tel 058-389-2200 (代) 内線 257

Fax 058-389-2205



JACET-Chubu Newsletter 第 26 号

2011 年 5 月 10 日発行

発行者：大学英語教育学会中部支部

小宮富子

編集者：下内 充

石川有香 片野田浩子